

江戸幕府の滅亡

1867年10月14日、15代将軍徳川慶喜は政権を朝廷に還し、江戸幕府を消滅させた。討幕を避ける目的のほか、慶喜は、政治能力に乏しい朝廷が慶喜に政権を再度委ねると踏み、さすれば樹立される新政府で徳川氏が権力をもてると考えた。しかし、慶喜は政権を再度委ねられず、また、新政府に席を用意されていなかった。

○江戸幕府の滅亡

●第二次長州征討

1866年6～8月、⁽¹⁾ _____ (第二次)

…長州藩が倒幕の動きを見せたため、幕府が長州藩を再度攻めた戦い

…幕府軍は各地で敗れ、14代将軍⁽²⁾ _____ の急死で戦闘中止



1866年12月、15代将軍に⁽³⁾ _____ が就任した。



1866年12月末、孝明天皇が急死した（毒殺か）。

→孝明は、攘夷の考えをもちながらも過激な者を嫌い、公武合体を進めてきた。

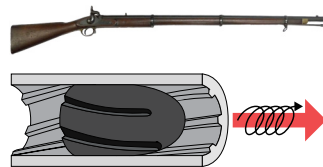
⇒その死は、武力倒幕（討幕）など過激な行動を許す転機となった。



図1 徳川慶喜

南北戦争の中古品—エンフィールド銃

1865年、南北戦争が終わり、前装式施錠銃が大量に余った。イギリス人グラバーは、これらの銃を薩摩藩経由で長州藩に流した。西洋で後装式が主流になる中、時代遅れの銃であったが、火縄銃にはない施錠（ライフリング）をもっていた。発射と同時に弾が回転し、高い威力・命中率を発揮した。



●一刻を争う行動

<薩摩藩・長州藩>

薩摩藩・長州藩は、雄藩連合政権を目指して討幕を決意した。



1867年10月14日、⁽⁴⁾ _____

…両藩と朝廷内の岩倉具視が結んで受けた討幕の命令

◇(4) …天皇による直筆がないなど、偽の勅命という説あり

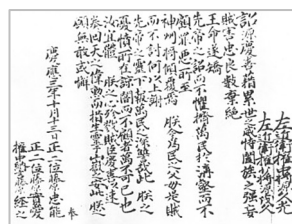


図2 討幕の密勅



図3 岩倉具視

<土佐藩>

土佐藩は、遠い先祖が徳川氏から恩を受けたため、討幕には反対であった。

→1867年、坂本龍馬は、将軍が政権を朝廷に還し（幕府の消滅）、

天皇のもとに徳川氏・雄藩の連合政権を樹立する構想「船中八策」を起草した。

⇒前土佐藩主⁽⁵⁾ _____ は、後藤象二郎を通してこの構想を知り、

15代将軍⁽⁶⁾ _____ に勧めた。



1867年10月14日、⁽⁷⁾ _____ の上表

…(6) が朝廷へ政権を還したこと

…幕府消滅による討幕の空振り、徳川氏主導の雄藩の連合政権樹立を意図



図4 大政奉還すべきか
*13日、二条城で重臣に諮問

●新政府樹立と徳川氏の否定

「大政奉還」により、「討幕の密勅」は空振りに終わった。

⇒焦った薩長両藩は武力を背景に、今後についての朝廷の公式な回答を操作した。



1867 年 12 月 9 日、⁽⁸⁾ _____

…朝廷による「天皇を中心とする新政府の樹立」「幕府の公式な消滅」の宣言

…征夷大將軍（幕府）・⁽⁹⁾ _____ ・⁽¹⁰⁾ _____ の廃止

…⁽¹¹⁾ _____ (⁽¹²⁾ _____ ・⁽¹³⁾ _____ ・⁽¹⁴⁾ _____) の創設

◇(12) …有栖川宮熾仁親王
ありすがわのみやたるひとしんのう

◇(13) …親王・公卿・雄藩の藩主
くぎょう

◇(14) …薩摩藩の西郷隆盛・大久保利通^{としみち}、長州藩の木戸孝允^{たかよし}・伊藤博文、
土佐藩の後藤象二郎^{たかちか}・福岡孝弟^{おおくましのぶ}、肥前藩の大隈重信など藩士



1867 年 12 月 9 日夜、⁽¹⁵⁾ _____

…徳川慶喜抜きで開かれた、(11) による会議

…慶喜に辞官納地（内大臣の辞退と領地の一部返上）を命令



慶喜は、辞官納地の他にも挑発を受け、旧幕府勢力を率いて新政府に挑んだ。



図5 王政復古の大号令

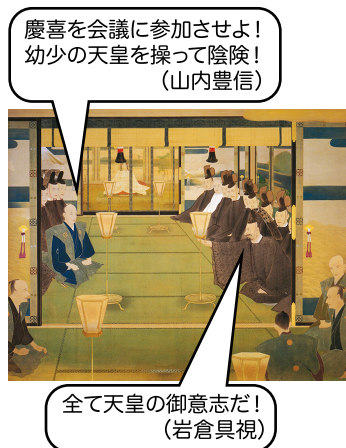


図6 小御所会議

○幕末混乱期の民衆

●民間独自の神道

幕末、民間独自の神道が創始され、世の混乱に不安を抱く民衆を救った。

①⁽¹⁶⁾ _____ …⁽¹⁷⁾ _____ が大和に創始した神道

②⁽¹⁸⁾ _____ …黒住宗忠^{くろずみむねただ}が備前に創始した神道

③⁽¹⁹⁾ _____ …⁽²⁰⁾ _____ が備中に創始した神道

◇上記の神道は、後に明治政府から公認されて⁽²¹⁾ _____ と総称



図7 中山みき



図8 黒住宗忠

●変革への期待

幕末、民衆は尊皇攘夷論に影響され、また、開国による物価上昇に不安を抱いた。

⇒こうした民衆が幕末期に起こした一揆は、⁽²²⁾ _____ と呼ばれ、

不平等のない世の到来を要求する側面があった。



1867 年 8 月から翌年にかけて、徳川氏の天下が崩れて世が変わっていく状態を、

民衆が「⁽²³⁾ _____ 」と歌いあげ、はやし立てる集団乱舞が発生した。



図9 ええじゃないか

「国民」「日本国家」の発見—幕末のナショナリズム

江戸時代、人々の帰属意識は、藩あるいは令制国（三河国など）にあった。しかし幕末には、例えば東北の農民が、外圧に反応し、田植えの間に筆をとって世界地図を描き、真中に「大日本」と小さく書き止め、日本の行く末を案じた。似た事例は多い。外圧は、人々が「国民」ないし「日本国家」を発見する契機となった。ただし、まだ端緒的な形態で、前期的ナショナリズムと言われる。

